

3 2025年に目指すべき医療提供体制の方向性

国立社会保障・人口問題研究所推計によると、伊賀区域については、平成 27 (2015) 年から平成 37 (2025) 年の 10 年間で 14,000 人の人口減が見込まれています。その後は 5 年ごとに 8,000~9,000 人の人口減が見込まれています。

また、65 歳以上 75 歳未満人口は平成 32 (2020) 年頃をピークに、75 歳以上人口は平成 42 (2030) 年頃をピークにその後減少していくことが見込まれています。

以上により、当該区域の医療需要はやがて減少していくことが予想されます。

このような中、平成 26 (2014) 年病床機能報告の状況からは、伊賀区域については回復期機能の一層の充実が求められるといえます。

- 当該区域に所在する 3 つの基幹病院に分散している急性期機能については、効率性及び質の確保の観点から、統合することが適当と考えられるのではないかと。
- 基本的な方向としては、上野総合市民病院及び名張市立病院については、それぞれが得意とする分野における急性期機能を担うこととし、その他の急性期機能については、岡波総合病院に移管していくこととしてはどうか。
- 併せて、岡波総合病院、上野総合市民病院、名張市立病院の各基幹病院については回復期機能の確保・充実を図り、患者が住み慣れた地域で療養生活を行うことができる体制を構築することとしてはどうか。
- 以上の急性期機能の移管等にかかる具体的なスケジュールや方策については、今後、関係者からなる協議の場を設けて、検討していくこととしてはどうか。

その他の病床を有する医療機関の機能については、将来にわたる人口動態等を踏まえながら、地域医療構想調整会議において引き続き検討していくこととします。